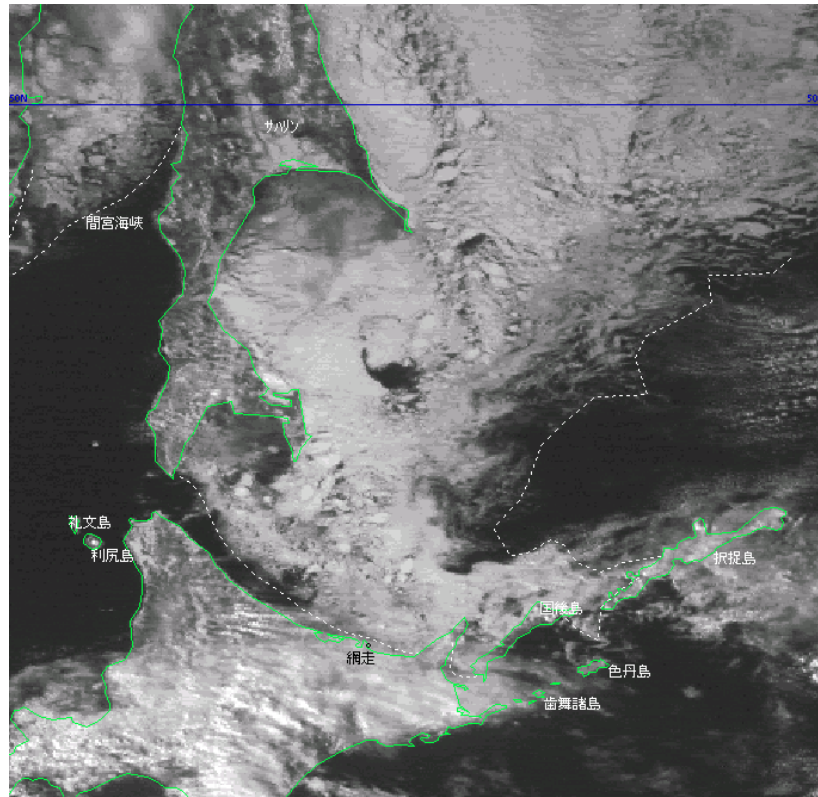


今月の気象衛星画像 (2004年3月)



2004年3月9日15時の可視画像

オホーツク海の流氷と海明け*

気象庁では船舶の安全運行に寄与するためオホーツク海の海氷に関する「全般海氷情報」を公表している。海氷の観測や状況掌握には目視の他、航空機やレーダーなども使用しているが、気象衛星の画像も重要な情報源である。写真は網走地方が海明け*した9日15時の可視画像である。海氷は太陽光線の反射率が大きく、また動きが非常に遅いため上空に雲がなければ可視画像による判別は容易である。この時間オホーツク海上には雲がほとんど見られず、破線で示した北海道オホーツク海沿岸・択捉島付近から北の海上や間宮海峡に白く見える所はすべて海氷である。

網走地方の2004年2月の月平均気温は -4.1°C で、平年より 2.5°C 高く経過した影響もあってか平年より15日、昨年より37日早い海明けとなり、さらに流氷は融解などによる退去が進んで、地上からの目視観測では3月24日を最後に視界から消え、観測史上2番目に早い流氷終日となった。

(海明け、流氷終日は網走地方気象台発表の資料による)

(気象衛星センター)

*海明け：全氷量が5割以下になり、かつ沿岸水路ができて船舶の航行が可能になった最初の日。